

あったかハート推進週間の取組(2月)



【温かな心の育成】

附属小学校では、子供たちに温かな心を一層育むことを重点として取り組んでいます。2月は、以下の内容で行いました。

月	週 間	内 容
2月	2/4(水)～10(火)	道徳科の授業 内容項目：生命の尊さ

【実際の授業】

6年生では、「命を見つめて」を読み、命の尊さや、当たり前の日常のありがたさについて考えました。



【学習を振り返って】

- ・命と向き合うことの大切さや、今健康に生きていることがどれだけ幸せなことかを、瞳さん（教科書の登場人物）の生き方から分かりました。
- ・家族や友達と過ごすことができる時間がどれだけ幸せなことで、当たり前ではないことが分かったので、これからも家族や友達を大切に生きていきたいと思いました。
- ・瞳さんの「生きていれば何にでも挑戦できる」という言葉がとても心に残りました。これからも、今を大切に、挑戦する心を忘れないようにしたい。また、支えてくれる家族や周りの人への感謝の気持ちも忘れないようにしたいです。

【各学年で行った授業後の子供の感想】

- ・大きくなって、できることが増えました。これからもっと勉強したり運動したりして、できることを増やしていきたいです。そして、人を幸せな気持ちにできる人になるために、人に親切にしたいです。(1年生：おおきくなってね おおきくなったよ「みんなあかちゃんだったよ」)
- ・命に軽いや重いはなく、全部平等だと思いました。わけは、誰の命でも誰かにとっては大切に思われているはずだからです。(2年生：かけがえのない命「たからものなあに」)
- ・命を大切にするために、希望をもって、自分を信じて生きていきたいです。また、人のせいになり、言い訳をしたりしないようにしたいです。今できていないこともあるけれど、今を大切に、一つ一つがんばりたいです。(3年生：せいいっぱい生きる「六さいのおよめさん」)
- ・私のおじいちゃんが病気のときに、「生きていてくれてありがとう」と思っていたことを思い出しました。他の人にとっては知らない人の命だけれど、私にとっては大好きな人の命だから、一つ一つの命は大切なものだと思います。(4年生：かけがえのない命「ぼくのおばあちゃん」)
- ・私のひいおばあちゃんが亡くなったときに、昨日まで生きているのが当たり前だったのに、今日もう会えないと思いました。そのとき、命の重さを感じました。
(5年生：命を守る「二十分間の出来事」)